

集中治療室における疾患有病率に関する国際調査

1. 研究の対象

2017年9月13日（水）に集中治療室に入室中あるいは新規に入室された方

2. 研究目的・方法

敗血症（感染症によって臓器障害を来している状態）や感染症は集中治療領域における重要な問題です。これらに対する適切な治療を行う上で、その有病率や予後を知ることは大切と考えています。1992年にヨーロッパで第1回目の大規模な調査が実施され、価値ある情報を得ることができました。2007年には2回目の調査が実施され、世界75カ国が参加して、現在の診療ガイドライン作成などに重要な影響を与えました。今回、2回目の調査から10年が経過し、世界中の集中治療室における感染症の疫学と、予後を調査することを目的に第3回目の調査を計画しました。2017年9月13日（水）に集中治療室に入室中あるいは新規に入室された方を対象に、世界同時に実施され、日本集中治療医学会も本調査に協力をしています。

3. 研究期間

本研究は平成30年3月31日まで実施いたします。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

集中治療室入室時の合併疾患、入室時の診断名、重症度スコア、感染症に関連した検査の値、集中治療室退室時の予後などを調査しますが、この調査のために新たに実施される検査は一切、ありません。

5. 外部への試料・情報の提供

本研究はベルギーのErasmus大学を主管施設として実施されます。Erasmus大学に設置されたデータセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行い、データセンターに患者さんを特定できるようなデータは提供いたしません。患者さんに関する情報は、当院の研究責任者が保管・管理します。

6. 研究組織

本研究はベルギーの大学病院を基幹施設とした世界的調査です。日本集中治療医学会も本研究に協力をし、国内の多くの病院の集中治療室において実施されます。

日本集中治療医学会公式ホームページ

<http://www.jsicm.org/news-detail.html?id=191>

7. 研究へのデータ利用の取りやめについて

いつでも可能です。患者さんあるいはそのご家族からの代理人（患者さんが、ご自身の意思を伝えられない健康状態にある場合など）がデータを本研究に用いられたくないと考えられた際には、下記までご連絡ください。取り止めの希望を受けた場合、それ以降、患者さんのデータを本研究に用いることはありません。しかしながら、同意を取り消した時、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合のように、結果を廃棄できない場合もあります。

なお、総合同意書でデータの利用について希望されない旨を記載いただいている場合、データの使用は行いませんので、改めてお申し出いただく必要はありません。

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先および当院での研究責任者：

高知大学医学部麻酔科学・集中治療医学講座 矢田部 智昭

住所：高知県南国市岡豊町小蓮 電話：088-880-2471

日本における研究代表者：

日本集中治療医学会 理事長 西村 匡司